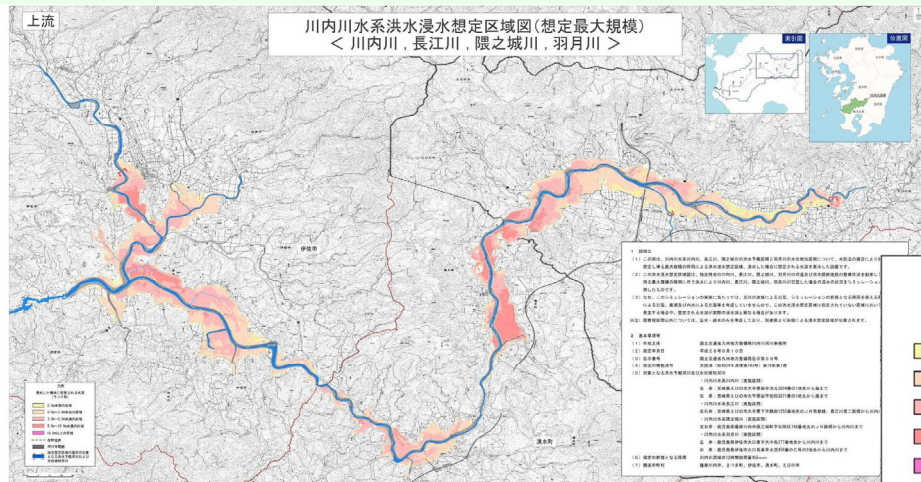
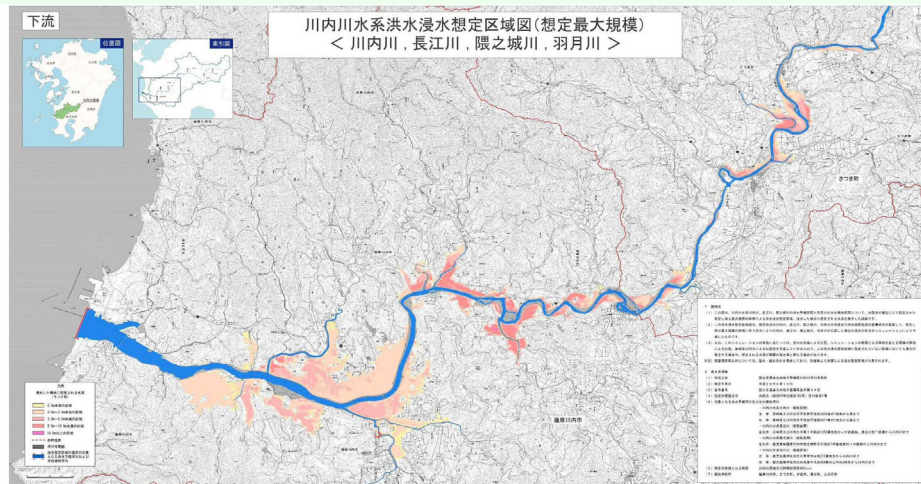


内外水統合型の多段階浸水想定図・水害リスクマップ

第9回 川内川水系流域治水協議会

○これまで水防法に基づき住民等の迅速かつ円滑な避難に資する水害リスク情報として、想定最大規模降雨および計画規模降雨を対象とした「洪水浸水想定区域図」を作成、公表してきました。（H28.6.10公表）

【洪水浸水想定区域図（想定最大規模）】

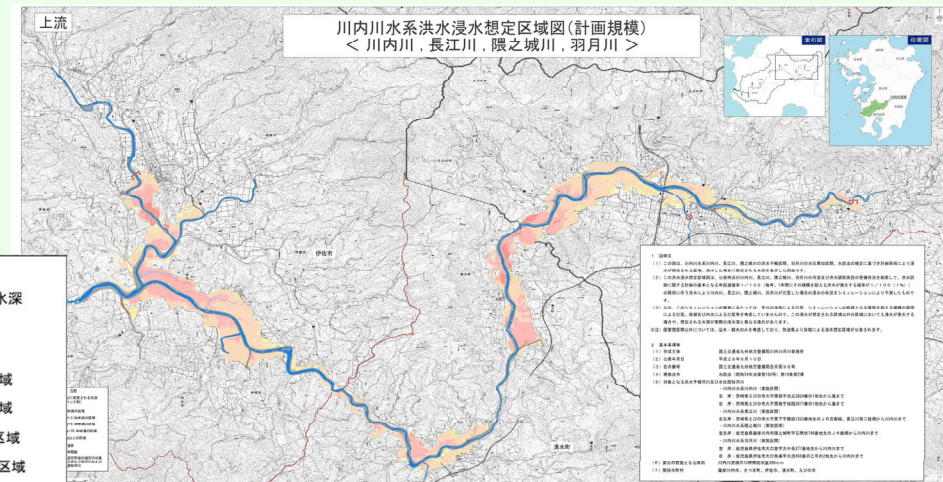


凡例
浸水した場合に想定される水深
（ランク別）

- 0.5m未満の区域
- 0.5m～3.0m未満の区域
- 3.0m～5.0m未満の区域
- 5.0m～10.0m未満の区域
- 10.0m～20.0m未満の区域
- 20.0m以上の区域

※H28.6.10公表

【洪水浸水想定区域図（計画規模）】



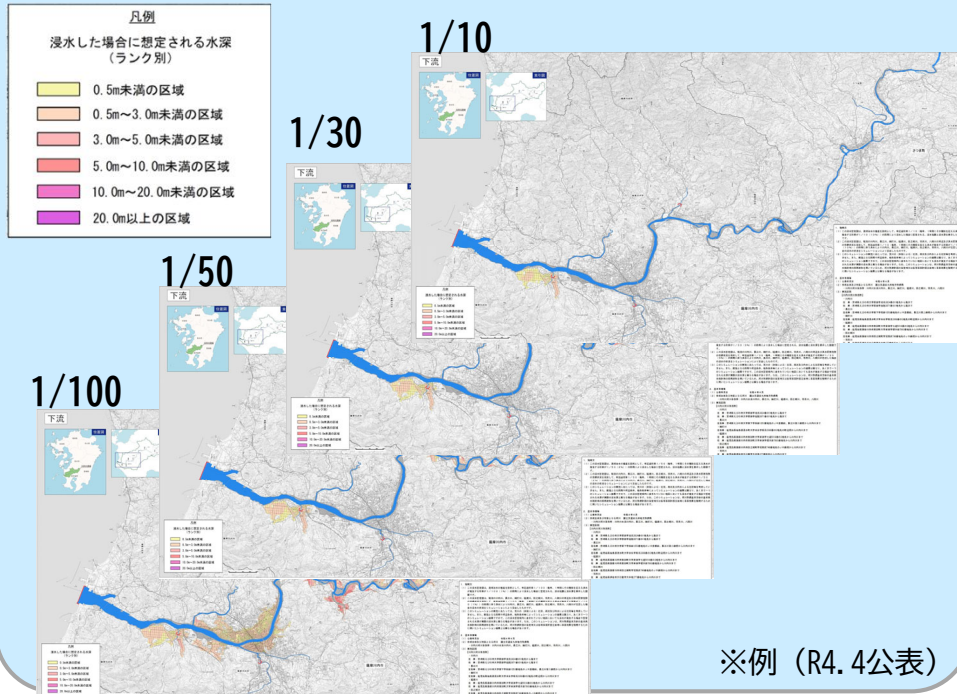
※H28.6.10公表

○土地利用や住まい方の工夫の検討、水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討など、流域治水の取組を推進することを目的として、発生頻度が高い降雨規模の場合に想定される浸水範囲や浸水深を明らかにするため、令和4年に国管理河川からの外水氾濫を対象とした「多段階浸水想定図」及び「水害リスクマップ」を作成、公表してきました。(R4.4公表)

【多段階浸水想定図（外水氾濫）※】

※国管理河川からの氾濫

想定最大規模に加え、高頻度から中頻度で発生する降雨規模ごとに作成した浸水想定図

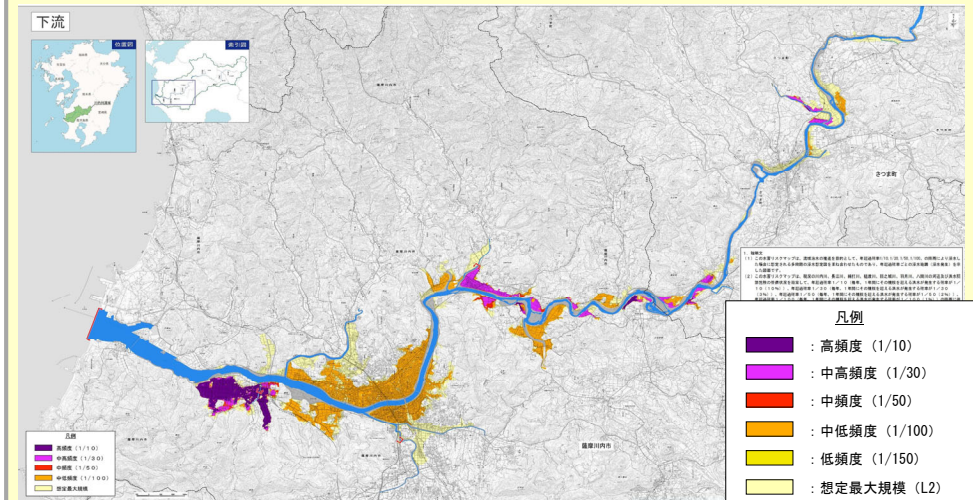


重ね合わせ

【水害リスクマップ（外水氾濫）※】

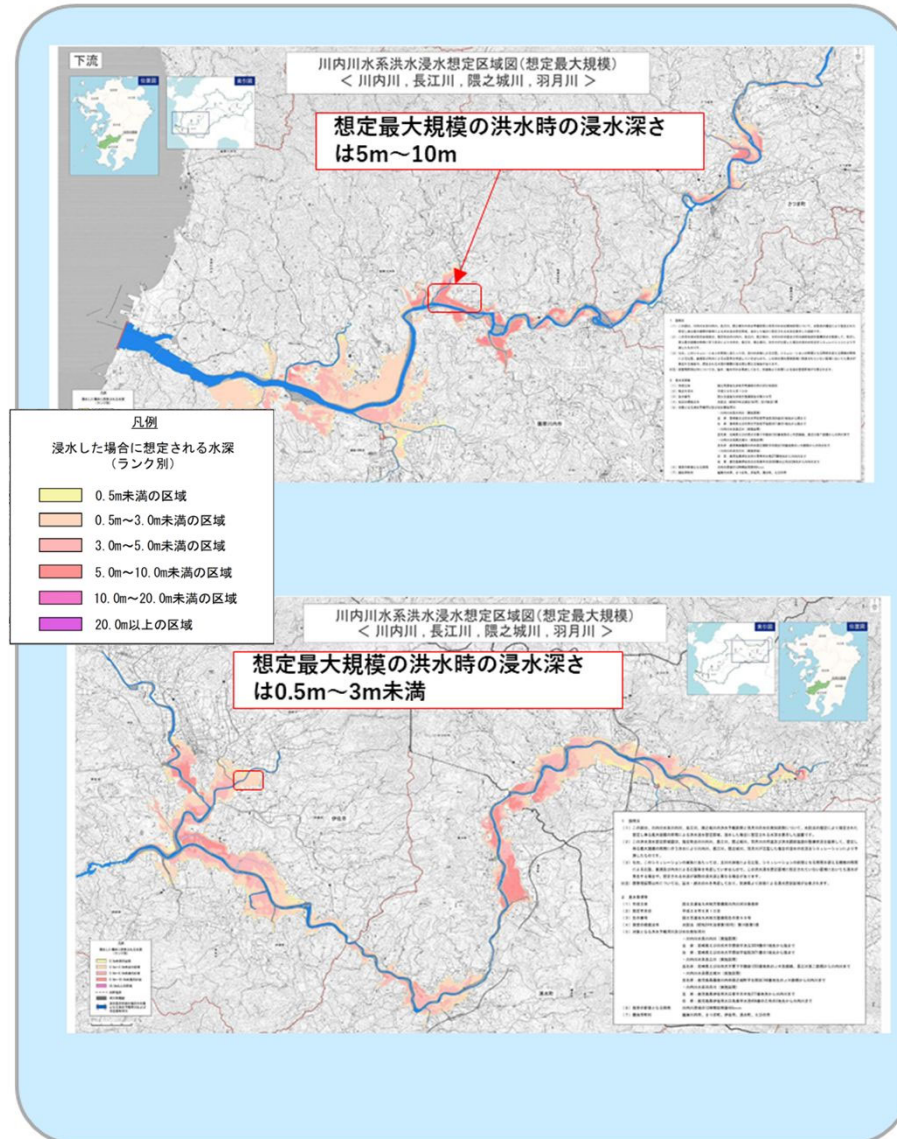
※国管理河川からの氾濫

多段階浸水想定図を用いて、降雨規模ごとの浸水範囲を浸水深ごと（0以上、0.5m以上(床上浸水)、3.0m以上(1階居室浸水)）に重ね合わせた図面



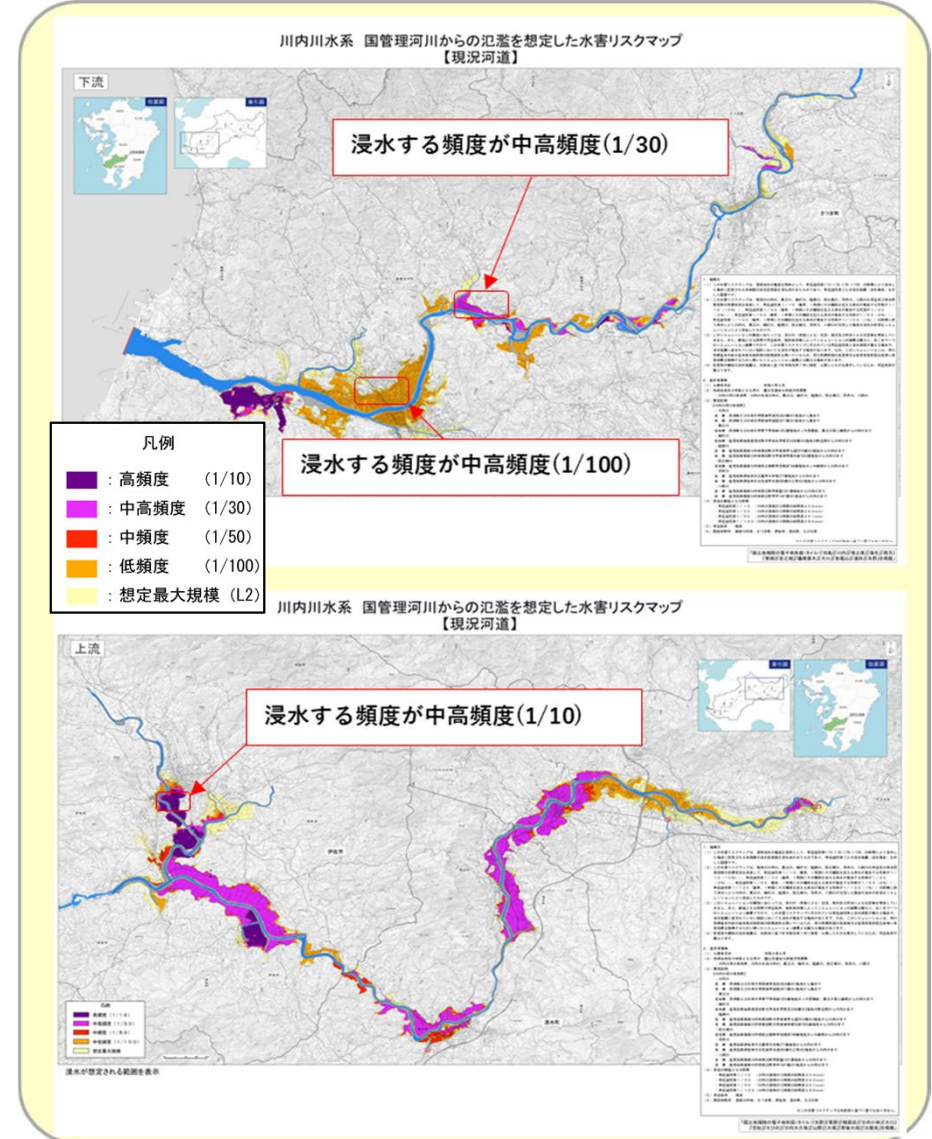
浸水想定区域図・水害リスクマップの違いについて

浸水想定区域図（想定最大規模）※外水氾濫



洪水時浸水想定区域図は、最悪の事態を想定し命を守るという観点から、避難が必要となる場所と安全な場所を把握することを目的としている。

水害リスクマップ※外水氾濫



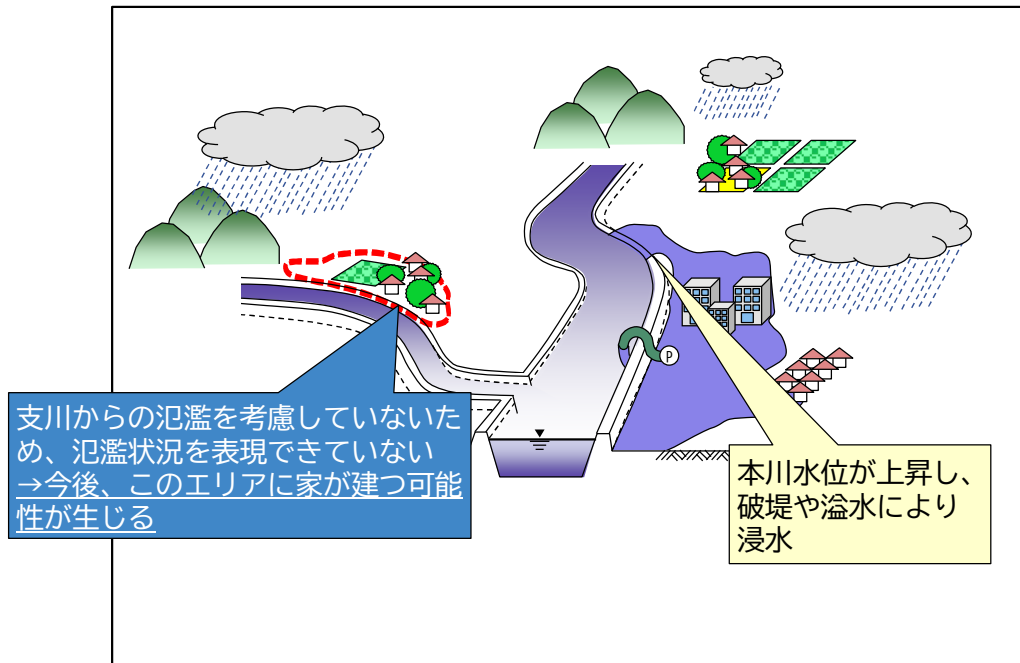
水害リスクマップは、降雨の発生確率ごとの浸水範囲を表示することで、中小規模の洪水でも比較的浸水しやすい場所が把握できる。

○前頁の洪水浸水想定区域図（H28. 6. 10公表）や国管理河川からの外水氾濫を対象とした「多段階浸水想定図」及び「水害リスクマップ」（R4. 4公表）は、主要河川（本川）からの外水氾濫のみを対象としていますが、高頻度、中高頻度の外力に対しては、本川氾濫に先んじて内水氾濫、支川氾濫が生じる可能性が高いため、特に高頻度、中高頻度のリスクを表現できていない可能性があります。

○そこで今回、支川氾濫や内水氾濫も考慮した内外水統合型の水害リスクマップを作成しました。

R4. 4公表

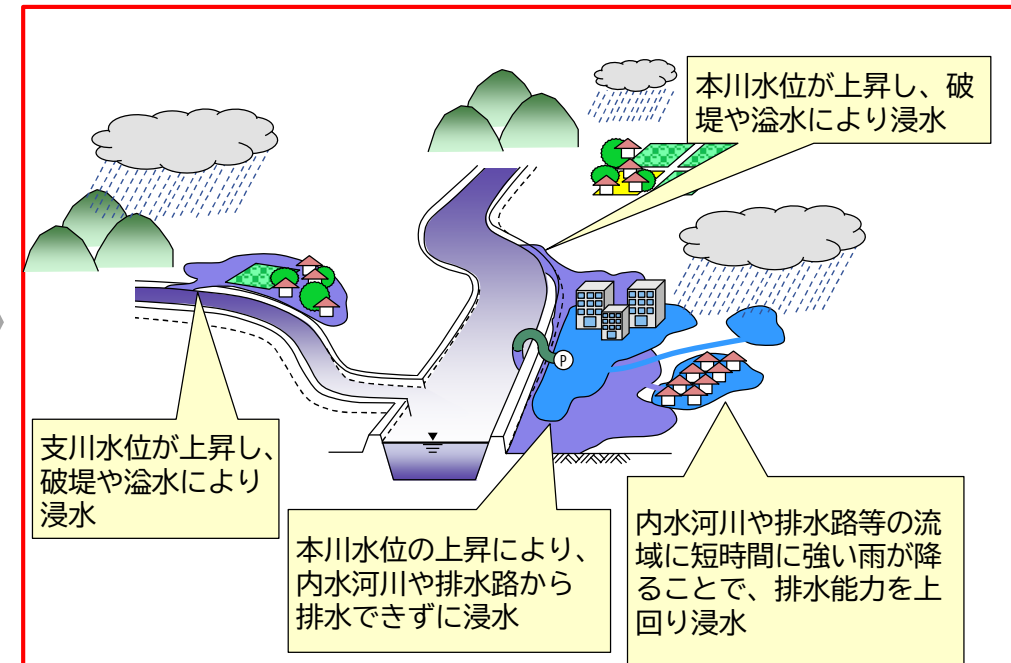
<外水氾濫のみ>



主要河川の外水氾濫を対象とした
氾濫解析のイメージ

今回公表

<内・外水一体型氾濫>



内外水統合型の
氾濫解析イメージ

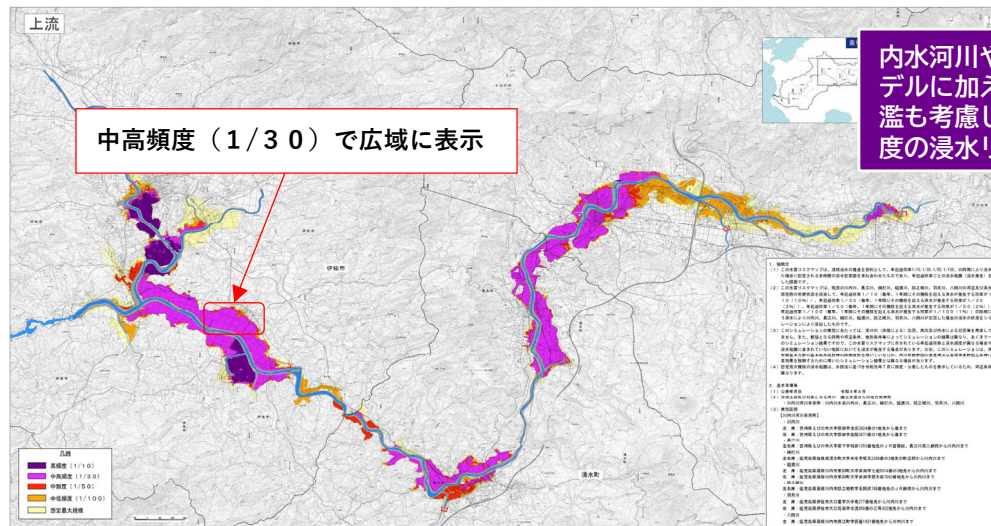
- 内外水統合のリスクマップは、左記の外水氾濫結果に、「支川氾濫」と「内水氾濫」による結果を重ねたものである。
- 内水氾濫シナリオは、降雨のみで計算上浸水が発生する（浸水範囲が過大になる）おそれがあるため、10cm未満は「浸水なし（非表示）」としている

内外水統合型水害リスクマップについて

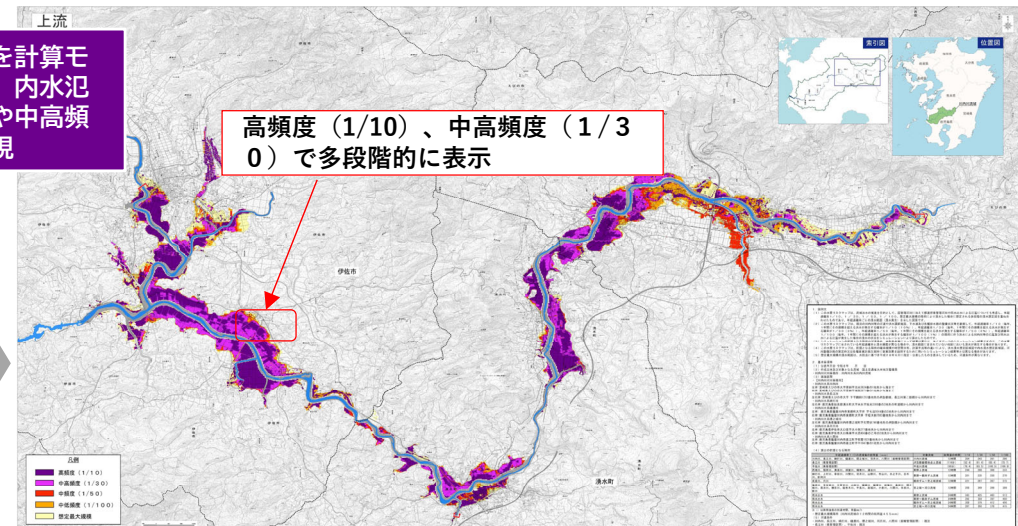
○今回公表する「内外水統合型水害リスクマップ」は、前頁で示した国管理河川からの外水氾濫に加えて内水氾濫による浸水リスクを一体的に表現したものです。

○外水（本川）と内水（支川、下水道等）の氾濫状況を一体で示すことにより、高頻度、中高頻度においても内水氾濫も含めた氾濫状況を表現することができ、浸水実態に即した避難計画や防災まちづくりの検討への活用が期待されます。

R4公表：外水の水害リスクマップ



今回公表：内外水統合型水害リスクマップ
(R 8.6 公表予定)



現在、検討中の結果であり変更となる場合がある

凡例

- : 高頻度 (1/10)
- : 中高頻度 (1/30)
- : 中頻度 (1/50)
- : 低頻度 (1/100)
- : 想定最大規模 (L2)

外水の水害リスクマップと内外水統合型水害リスクマップの比較
(浸水範囲：浸水が想定される範囲を表示)